

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900833		
法人名	有限会社 かじかわ		
事業所名	グループホーム めぐみの里 (2号館)		
所在地	〒825-0004 福岡県田川市夏吉364番地	0947-45-2409	
自己評価作成日	平成27年05月19日	評価結果確定日	平成27年06月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年06月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者ひとりひとりに寄り添い、できる限り希望を叶えることができるように全職員で日々取り組んでいます。理念の「その人らしくゆったり」を念頭に個々がしたいこと・できることに目を向け、強制することなく物事に取り組んで過ごしていただいています。職員が働きやすい職場づくりにも取り組んでいて、希望休や有休の取得、病欠時の勤務変更などにもできる限り対応し、職員がお互いに思いやりあって働くことができるような態勢作りが心がけています。グループホームにおける看取り介護にも取り組んでおり、これまでに8名ほどの看取りを行いました。職員は大変な思いをしながらも、貴重な経験をつんでおり、今後も医療機関やご家族の協力のもと、経験を生かして希望者への看取り介護を実施していくつもりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初にかかげた「その人らしくゆったりと～家庭的な環境と地域交流の中であたたかいケアを～」という理念があり、ホーム内にも掲示していつも目に付くようにしている。職員は、利用者の意見を尊重しながら、その人らしく生活ができるように取り組んでいる。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの福祉系の高等学校からの実習生をここ数年毎年受け入れている。(ヘルパーステーションも)地域の活動への参加は出来ないことも多いが、グループホームの食材は近くの商店から購入したり、利用者と徒歩や車椅子で近くの商店に買い物にでかけたりして、地域交流を図っている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの福祉系の高等学校からの実習生をここ数年毎年受け入れている。ボランティアの希望があるときも受け入れている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用状況や活動状況を伝え、介護保険に関することなどにも触れながら意見交換をしたりしている。そこでの意見を参考にして、グループホームや会社全体の事業に反映させるようにしている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険関係、生活保護関係の職員等とグループホームを含む会社の各事業所が日ごろからよく連絡を取ったり、顔を合わせたりしており、取り組みについて伝えられている。不明な点はこまめに聞いて確認をするようにしている。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しての研修は年に1回は必ず行っている。どうしても身体拘束が必要な場合には、家族等と話し合い同意を得ると共に、最低限度の利用にとどまるよう留意し、こまめにモニタリングを行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関しての研修は、年に1回は必ず行っている。虐待になるような行為・行動がないか管理者や職員間でお互いに注意し合いながら、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する資料を準備し、閲覧できるようにすると共に、研修を行い制度の理解ができるよう取り組んでいる。必要性が高い利用者に関しては、施設長と協議したりして検討していくようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は説明と共に、家族に特に理解してもらいたい注意点や利用料について、詳細に説明するように心がけている。入居後も、お尋ねがあればその都度対応している。改定時の説明も同様に個別に説明し同意を得るようにしている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族がなんでも話しやすい関係性を築くことができるような努力をしている。また、外部の苦情相談窓口があることも伝えている。意見や要望があった時は、施設長や職員も含めて検討し、出来るだけ利用者の意向に沿えるように努力している。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員との日々の会話の中から意見や提案を聞いている。すぐに実行できることは実行し、申し送りながら全職員で話し、再び意見交換をしてケアに結び付けていくなどしている。 管理者は職員からの意見を受けて、施設長と意見交換し事業所全体の運営に反映させていくように取り組んでいる。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や他全職員についての努力や実績勤務態度などを把握し、労働形態や時間、給与に反映させている。休日の希望にも出来るだけ応じるようにし、有給休暇の取得にも取り組んでいる。資格取得を目指す職員に対しては、講習への参加を促したり、研修への参加を勧め、職員のレベルアップに努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用に当たっては性別や年齢の条件はなく、定年退職後の経験者も採用することがある。 職員の勤務希望にも出来るだけ応じ、負担なく仕事に取り組めるようにしている。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修として、身体拘束排除についてや虐待防止、プライバシー保護などの研修を行っている。グループホーム利用者の権利を掲示し、職員に周知を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や他全職員についての力量を把握し、個々に応じた研修への参加を促している。勤務年数が達した職員には、介護福祉士資格取得をめざせるよう、勤務調整をしたりして対応している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者はグループホーム協議会に加入していて、勉強会などの案内も届いている。参加できる勉強会には参加して、他グループホームとの意見交換をし、ケアの上での参考にしたりしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談や訪問、入居時の聞き取りの際、本人とはなし不安などを聞き入れるようにしている。生活環境が変わることでの不安は大きいので、安心できるようにこまめに話しかけるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に家族からも、入居前や入居時に家族からの意向や困りごとなどを聞き取り、本人が不安なく過ごしていけるよう、グループホーム入居後の協力も仰ぎながら、関係を築いていけるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どういう理由でグループホームへの入居を希望され、グループホームでどのような生活を望まれているのかを確認し、入居したその日からの様子を詳細に観察し、職員・管理者等で先の対応について検討していくようにしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームは生活の場であるため、できることはしていただくようにしている。職員と一緒にいること・見守りの中で行うことを基本としている。利用者からの意見や要望を聞き、生活に取り入れていくようにしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力が可能な方は、できるだけ家族に依頼して対応してもらっている。(受診・買い物など) 遠方の家族には、苑だよりで月に1回は状況報告をし、他は必要時に電話や手紙で知らせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅で生活していた時のヘルパーさんなど昔のなじみの人の面会はよくあっている。		
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居時や入居後に利用者の性格や状態を把握して、食堂の席を決めたり席替えをするようにしている。 かかわりあっていく中でも、トラブルになることがあるため、話を聞いたり、助言しながら関係が悪化しないように努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたときはお見舞いに行き、亡くなられた時は通夜や葬儀に出席している。特別に連絡を取ることはないが、近くで会ったときは、積極的に声をかけ状況を聞いたりするようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前や入居時に意向の聞き取りを必ず行っている。本人からの意向の確認が取れないときは、生活をしていく中から思いをくみ取り、家族の意向も確認しながら、本人本位になるように努め、介護計画に反映している。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前・入居時・入居後の話の中で、本人・家族から情報を得ている。それまでの生活で利用していたサービスを確認し、必要に応じてサービス事業者に問い合わせ以前の情報収集にも努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の生活の中から、活動への取り組みの様子を見たり、生活状況(排泄・食事・睡眠など)を見ながら、それぞれの状態や有する力について把握するよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、本人や家族からの意向の確認と共に、職員からの心身の状況の確認をし、毎月のモニタリング・短期目標期間のモニタリングをおこない、介護計画の作成をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録をしている。管理者は個別に支援経過記録もしている。特変時には状況について詳細に記載し、朝夕の申し送りでも詳細に伝えるようにしている。毎月ミーティングを行い個別の経過を確認し、必要なことは介護計画の見直しの際に活用している。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況により、個別に希望される要求に対して、施設長と管理者・職員で検討のうえグループホームで対応することはある。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ひとりひとりが地域資源を活用して、安全にグループホームでの生活を送っていけるよう努力している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、グループホーム入居前からのかかりつけ医に継続してかかるようにしている。認知症状により専門医療機関にかかる必要あるときは、家族と話し合いより希望に沿った病院にかかるようにしている。往診の希望があれば対応を依頼したり、往診の協力がある医療機関に変わるなどしている。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で気づいたことで、医療的見解が必要な時は看護職員に伝え、受診や処置の必要性を職員・管理者と共に検討し対応している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院の際には、病状や治療について家族と共に話を聞き、時々お見舞いに行きながら、医師や看護師、家族に状況を聞きながら、退院の目的を探っている。医師、看護師だけではなくソーシャルワーカーとも連携を取っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りを実施していることについては、契約時に説明している。看取りの希望確認書を提示するが、まだ考えられないという方も多く、入居後しばらくしてから話をする場合も多い。看取りに際しては、協力医療機関での対応が必要となるため、出来ない場合があることも伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や事故発生時の対応や連絡方法などについては、社内の研修を通して備えている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。夜間想定での訓練も行い、連絡網の整備をして、近くに住む職員が駆けつけられるような対策をしている。地域の方々の連絡先も掲載させていただき、万が一の時の協力もお願いしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護に関しては社内研修をして、基本的なこととして捉え支援にあっている。利用者を先輩として尊敬しつつ、家庭的な家族のような存在として見守っていく支援に心がけている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何したいか、何食べたいかなどと声かけの中で質問し、言いたいことが言えるような雰囲気を作るようにしている。また、それに沿って食事メニューを考えたり、活動に取り入れたりしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間は基本的には決めていて、それ以外の時間は、本人の自由に参加してもらうようにしている。活動への参加は促すが、応じられない場合は、自由に過ごしてもらっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類や小物など自分の好きな柄を選んだり、簡単な化粧をされたり、散髪の時に希望するカットを伝えるなど、本人の意思でその人なりの身だしなみができるように支援している。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日ではないが、献立を設定している。誕生日や季節の行事に合わせてメニューを設定したり、利用者から「食べたいと言われたらそれをメニューに取り入れたりしている。利用者ができる下ごしらえなどは、職員とともに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量は、摂取時に見守りや介助をする中で確認している。食事量は普段の摂取量から食べられる量を見極めて適量になるように設定するため、わずかずつではあるが、個別に調整している。メニューによって食べられないときは、別のもので代用することもある。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に毎食後口腔ケアを行っている。歯ブラシをされない方でも、食後は緑茶を利用して口腔内に残渣物がないようにしている。気になることがあれば、歯科受診につなげるなど対応している。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツの使用をしていた方を、失禁もなく過ごされるので、普通の布パンツに替えたり、夜間はオムツを使用させていた方を、目が覚めたときはトイレに誘導するなどオムツ使用を減らした例はある。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	慢性の便秘症という方も多く、下剤の服用のほか坐薬や浣腸の使用をする場合もある。水分を多くとってもらったり、個別に整腸飲料を利用されるなど、自然な排便ができるように努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には夏場は週3回冬場は週2回と曜日を決めて入浴日の設定をしている。入浴日に事情があつて入れなかった場合は、別の日に準備し、その人だけでなく他にも入りたい方がいれば応じている。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の浅眠や不眠、体調不良、本人からの訴えなどあった時は、休憩時間をとっている。気候に合わせて空調の調節や寝具・衣類の調節をして快適に睡眠がとれるよう努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者それぞれの薬については、医師や薬剤師への確認はもちろん、処方箋をよく読んで作用・副作用・用量等の理解に努めている。薬の変更時は特に観察に努め、症状の変化に注意し、問題あれば受診や問い合わせをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とすること・できることに合わせて、作業を分担したりして作品作りに取り組んでもらっている。買い物の希望があれば一緒に出かけ、自分で見て選ぶことの楽しさを味わい、気分転換を図っている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	急な外出希望にこたえられないことは多いが、普段の会話の中から行きたい場所などが聞かれた時には、事前に準備してそこへ行くなど、個別の希望に沿えるように努めている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者はお金の所持をしている。病院受診の際は、自分で支払いをしたり、買い物の希望があるときは、職員にお金を預けたりすることもある。なくなったとか取られたというトラブルがないように注意はしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の希望があれば、対応している。家族などからかかってくることの方が多い。直接話しても聞こえなかったりすることもある。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の壁には、季節や行事に合わせて利用者と製作した作品を掲示したり、写真を掲示するなど、明るい空間をつくっている。対面式台所で職員が調理をしていても利用者が見え、料理のにおいが感じられ、食事が楽しみになるような空間になっている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がほぼ自分の席を決めており、そこで過ごすことが共用する空間となったりひとりで過ごす空間となったりしている。個々の関係性を考慮して席を決めている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れたもの、あると安心するものなど持参されている。配置などは個々にあわせて、テレビを見やすいところに替えるなど対応している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その時の入居者の状態によって「わかること」は変わってくるので、入居者の状態に合わせて整えている。日常生活動作が安全に行えるように整理している。		